

平成24年度
生涯学習振興・社会教育関係職員等研修(初級研修)フォローアップ研修

学習プログラムの評価について

ねらい : 学習プログラムの評価・改善の手法について
理解する

参考資料・図I-2-4出典 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
『社会教育計画策定ハンドブック 計画と評価の実際』(平成23年)

志々田 まなみ
(広島県立生涯学習センター・広島経済大学)
mn-shishi@hue.ac.jp

平成25年1月25日



本講義の目標

- なぜ学習プログラムの評価をしなければならぬかについて理解する。
- 評価すべき成果とは何かについて理解する。
- (午後のワークの目標)
本年の学習プログラム評価をおこなうことで、評価手法について理解する。



学習プログラムを

なぜ評価するのか？

〔学習プログラム〕

講座，行事，集会等の集合学習の機会において，住民の学習を支援するための計画

学習プログラム作成(企画立案)

PLAN

学習ニーズの把握や対象の分析

目的, 目標, 対象, 学習内容・方法,

時期, 会場, 回数等を定める。

DO

実施・運営

会場, 設備, 資料準備, 役割分担確認等

CHECK

プログラム評価,

学習成果の評価等

ACTION

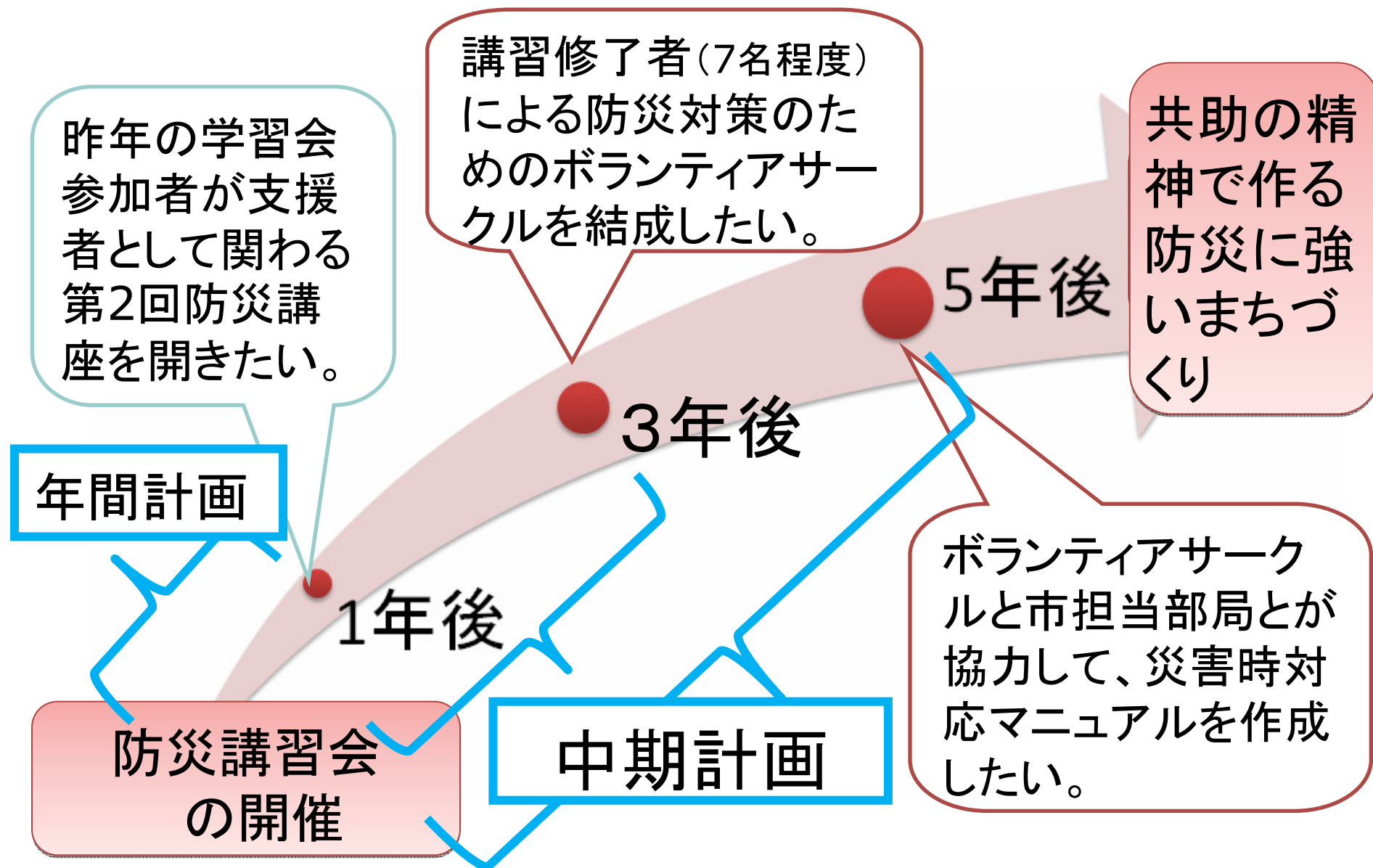
プログラムの分析・改善, 一般化



評価結果の意義

- PDCAサイクルの最終ステップ
(事業の改善・充実)
- 次年度計画の説明根拠となる資料
- 長期的な見通しのなかでの事業運営
(人材育成、地域づくりなどは短期事業で達成しづらい)

中期的な見通しをもった事業



A decorative graphic on the left side of the slide. It features a dark teal semi-circle at the top left, a light teal semi-circle at the bottom left, and a large orange circle with a fine grid pattern in the center. A thin black horizontal line extends from the right edge of the orange circle across the slide.

何を成果として

評価するのか？

成果のとらえ方--アウトプットとアウトカム

① アウトプット

事業を実施することによって直接発生した成果。

参加者・修了者数, 学習者の満足度, 成果物(人材, 作品・発表資料etc.)など

② アウトカム

施策・事業の実施により発生する効果・成果。


意識・意欲の変化, アウトプットの成果物の応用・活用,
環境の醸成・ネットワーク形成など

→アウトカムの中には中・長期的な成果につながるものが多い



アウトプットとアウトカムを見つける視点





子育て支援講座－全3回－ 卵アレルギー対応クッキング入門！

- 目的(ねらい)

子育ての悩みや苦勞を抱える親同士が、子育てについて相談したり、情報を交換し合うネットワーク作りを支援する。

- 目標

- ・アレルギーを取り上げた栄養講座(1日目)を聴き、卵アレルギーに関する基礎知識を理解する。
- ・互いの経験を出し合いながら調理計画(2日目)・実習(3日目)を行うことで、気苦勞の多いアレルギーに対応した料理をはじめとする子育て活動を、楽しめるようになる。



成果としてあげられるもの

- 1日目参加者大人30人、2,3日目参加者数親子15組（全日程・大人定員30名）
- 15組中、母子13組、父子2組
- 3回とも、受講後アンケート調査で9割以上が、講座に参加して良かったと回答。
- 全員協力して、調理実習を行えた。
- アレルギーに対応したレシピを作成したところ、参加者全員が家で試したいとコピーを持ち帰った。
- 調理時間が延びてしまい20分ほどしなかったが、最後に和やかに会食が行えた。



アウトプット成果

隣の人と相談し、
成果として考えられるものを
書き出してみましよう



アウトカム成果を見つける視点

○ 目的(ねらい)

子育ての悩みや苦勞を抱える親同士が、**子育てについて相談したり、情報を交換し合うネットワーク作りを支援する。**

○ 目標

- ・栄養講座(1日目)を聴き、卵アレルギーに関する基礎知識を理解する。
- ・**互いの経験を出し合い**ながら調理計画(2日目)・実習(3日目)を行うことで、**気苦勞の多い**アレルギー対応の料理をはじめとする子育て活動を、**楽しめるようになる。**

1) 様々な親同士が、子育てについて相談したり、情報を交換し合うネットワーク作りができたかどうかを確認できる場面


○ 隣の人と相談し、確認できる可能性のある場面を書き出してみましよう

2) 気苦労の多いアレルギー対応の料理をはじめとする子育て活動を楽しめるようになったか確認できる場面

○ 隣の人と相談し、確認できる可能性のある場面を書き出してみましよう


3) 互いの経験を出し合って、情報交流ができていたかを確認できる場面

○ 隣の人と相談し、確認できる可能性のある場面を書き出してみましよう



アンケート調査でいつ・何を
尋ねておけばよかったですか？

隣の人と相談し、
成果として考えられるものを
書き出してみましよう



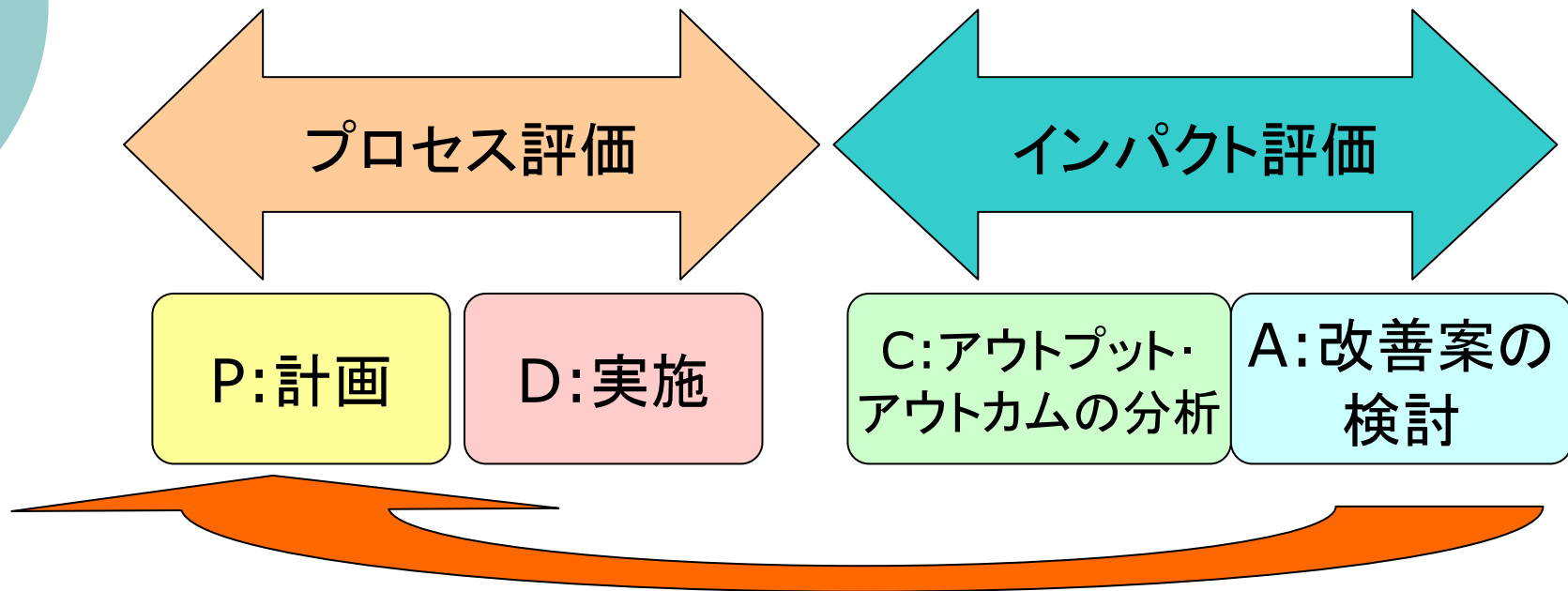
評価活動を改善に結びつける視点



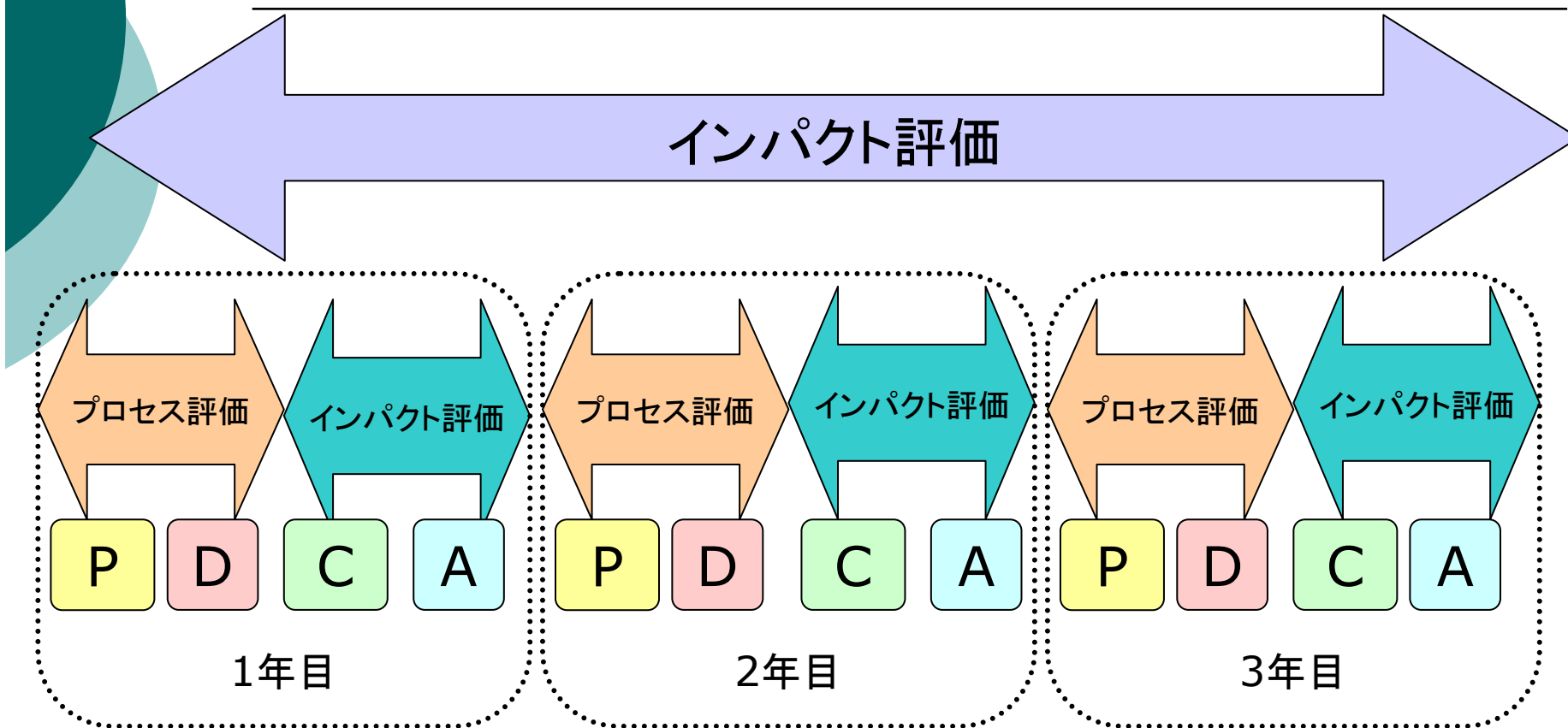
主に評価する項目

- ① 目標に設定した成果はどの程度到達できたか
インパクト評価＝アウトプット・アウトカムの成果
- ② 計画した活動の準備, 実施順序, 活動内容,
目標設定等は適切であったか
プロセス評価
- ③ この事業は, 目的(ねらい)に近づくことができるものだったか
この事業は, 教育計画に沿った(適切な)ものか
セオリー評価

計画と評価の関係



計画と評価の関係





成果としてあげられるもの

- ①1日目参加者大人30人、2,3日目参加者数親子15組
(全日程・大人定員30名)
- ②15組中、母子13組、父子2組
- ③3回とも、受講後アンケート調査で9割以上が、
講座に参加して良かったと回答。
- ④全員協力して、調理実習を行えた。
- ⑤アレルギーに対応したレシピを作成したところ、
参加者全員が家で試したいとコピーを持ち帰った。
- ⑥調理時間が延びてしまい20分ほどしなかった
が、最後に和やかに会食が行えた。



① プロセス評価

① 1日目参加者30人、2,3日目参加者数15組
: 1日目は定員充足。2, 3日目は参加者半減
→ 2,3日目は託児サービスが必要か。

② 母子13組、父子2組
: 父親同士は交流できていたようだが、母親と
はなかなか交流が…
→ 父親参加を増やすため広報に工夫が必要か。

③ 受講後アンケート調査
→ アンケートをとるタイミング、内容に工夫が必要か。

⑤アレルギーに対応したレシピを作成したところ、参加者全員が家で試したいとコピーを持ち帰った。

→コピー対応

→せっかくのレシピを活用する工夫が必要か。

⑥調理時間が延びてしまい20分ほどしなかった。

→交流時間が確保できるスケジュールに改善

* 当日多く寄せられた質問や苦情の内容から改善点を考える



セオリー評価

- 「子育ての悩みや苦勞を抱える親同士が、子育てについて相談したり、情報を交換し合うネットワーク作りを支援する」ねらい(目的)を達成するのにふさわしい事業であったか？
 - 子育て支援事業を進めるねらいとして、子育てネットワーク作りはこの市町では妥当な方針か？
 - この事業は地域のニーズに合致していたか？
- 来年の活動目標・ねらいだけでなく、事業方針の見直しや、事業継続の必要性についても検討すべき
- 中間アウトカム、長期アウトカムの修正、再検討

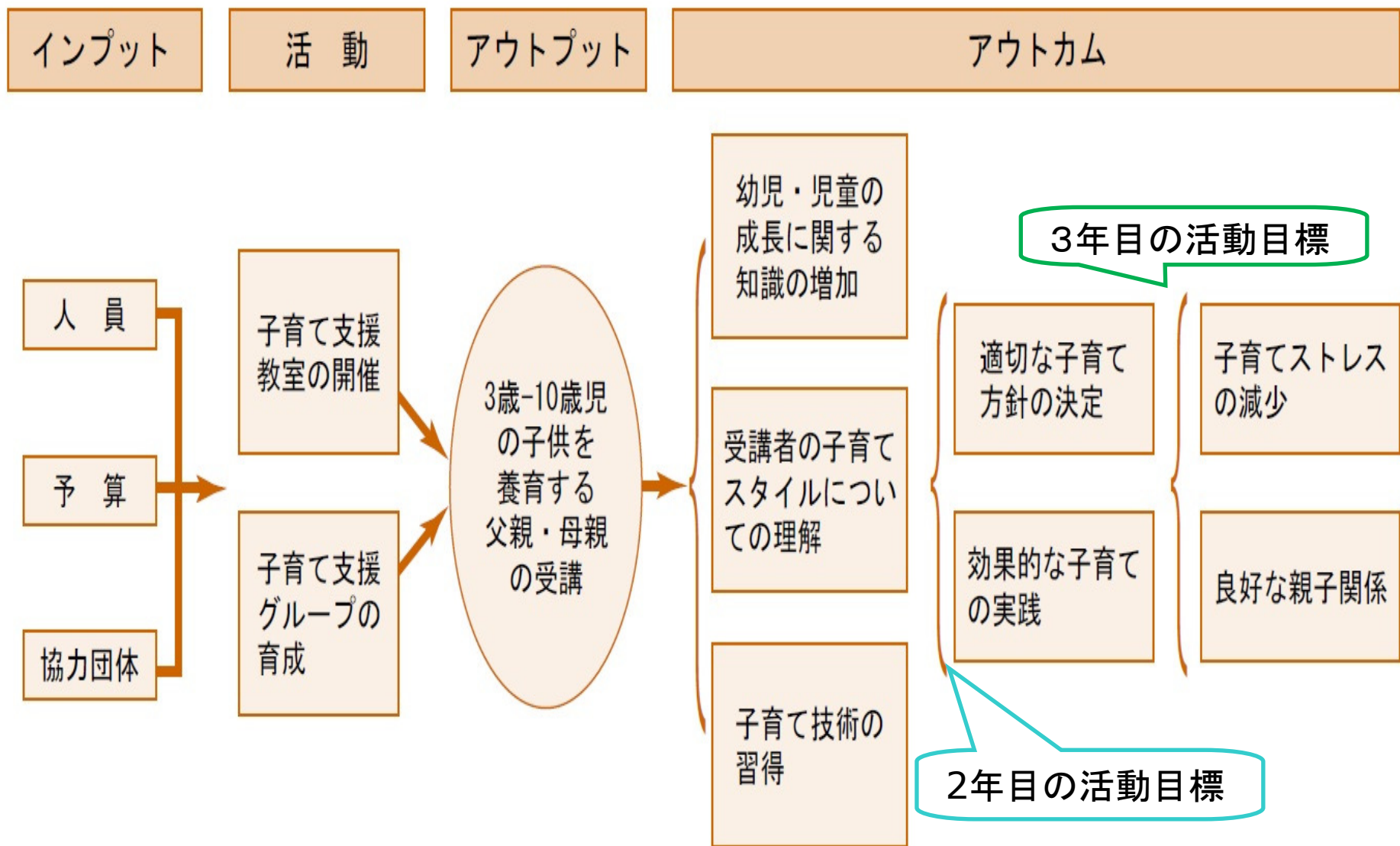


図 I-2-4 詳細な効果連鎖フロー図（子育て支援事業のロジックモデル）

（Taylor-Powell,E. and E.Henert,（前掲書）参考資料P52をもとに作成）



本講義の目標確認

- なぜ学習プログラムの評価をしなければならないかについて理解する。

中長期的な見通しのなかで、随時、事業改善（計画修正）しながら運営するためのプロセス

- 評価すべき成果とは何かについて理解する。
 - アウトプットだけでなく、アウトカムの成果が確認できるプログラム作り
 - 評価の視点を事業全体の方針にもむける